

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
小山地区まちづくり会議報告書**

平成30年9月
小山地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

1	【重点】都市計画・都市整備	P 1
2	【重点】道路・交通	P 2
3	住環境・生活環境	P 3
4	自然・環境	P 4
5	産業・観光・商店街	P 4
6	安全・安心	P 5
7	健康・医療・福祉	P 6
8	教育・子育て	P 7
9	生涯学習・文化・スポーツ	P 8
10	地域コミュニティ	P 9
	会議経過	P 10

1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

小山地区では、長年の課題事項である相模総合補給廠の返還については、相模原駅北側の約17haが日本政府に返還され、その隣接地約35haの共同使用が決定されました。まちづくりの早期実現に向けた一歩として相模総合補給廠内に南北道路や東西道路が暫定整備され、共同使用区域内にはスポーツ・レクリエーションゾーンが計画されていますが、一部返還地の土地利用計画の具体化や共同使用区域の市民の早期利用開始が求められているとともに、市民への情報提供を行いながら事業を進めることが必要です。

また、リニア中央新幹線の神奈川県駅が設置される予定である橋本駅周辺地区とのエリアを一体的に捉えて、まちづくりを進めることも必要です。

対応方策

相模総合補給廠の一部返還地の土地利用計画の具体化を進め、まちづくりの早期実現に向けた取組を推進するとともに、進捗状況等を踏まえて市民への情報提供を行う（行政）

- ・共同使用区域内に計画されているスポーツ・レクリエーションゾーンについては、市民利用を開始することが地域の活性化につながることから、早期の利用開始に向けて事業を推進するとともに、進捗状況等を踏まえて市民への情報提供を行う（行政）
- ・道路や上下水道等の基盤整備を先行的に実施する等、まちづくりの早期実現のため、計画的にまちづくりを進めることを検討する（行政）

行政施設が集積している相模原駅周辺地区と商業施設が発展している橋本駅周辺地区とのエリアを一体的に捉えたまちづくりを進める必要があることから、相模原駅近くへの行政施設の移転の可能性について検討を深めるとともに、より多くの市民の利用の創出に向けて両地区のアクセスを改善するための道路網や公共交通網のあり方について検討する（行政）

2 【重点】道路・交通

現状と課題

小山地区では、相模原駅を中心としたまちづくりを行う上で、多摩方面や周辺地域からのアクセスを強化するための道路ネットワークの構築が必要です。

一方で、相模総合補給廠西側の道路（市道すすきの氷川）から多摩方面へ繋がる県道503号（相模原立川）の動線がクランク形状となっており、円滑な交通の妨げとなっている状況です。

県道503号（相模原立川）の宮下交差点や、相模総合補給廠西側の道路（市道すすきの氷川）との交差点に設置されている押ボタン式の歩行者用信号機が分かり難く危険であることが課題です。

今後は、小田急多摩線の延伸やJR横浜線等の広域的な公共交通軸を生かしながら相模総合補給廠の一部返還地を活用したまちづくりが期待されていますが、小田急多摩線延伸の実現に時間を要すことやJR横浜線で地区が南北に分断されていることが課題となっています。

また、まちづくりの基盤となる道路にひび割れが散見されるところがあり、上下水道管の破損等が懸念されることから、道路の適切な維持管理が必要です。

対応方策

多摩方面や周辺地域とのアクセスを強化するため、都市計画道路宮下横山台線や南北道路、東西道路、相模総合補給廠北側外周道路等の早期整備に向け、事業の推進を図るとともに、進捗状況等を踏まえて市民への情報提供を行う（行政）

- ・相模総合補給廠西側の道路（市道すすきの氷川）と県道503号（相模原立川）のクランク形状を解消するため、相模総合補給廠の共同使用区域の一部返還を実現させ、直線的な動線となる道路の整備を検討する（行政）
- ・歩行者用信号機が分かり難い信号機について、関係機関へ要望し、信号機の改善を検討する（行政・関係機関）

小山地区の南北の交流を分断しているJR横浜線について、連続立体交差化事業の検討を進める。また、小田急多摩線延伸やJR横浜線連続立体交差化事業は実現に時間を要することから、総合相模更生病院前の踏切改良を行い、南北道路とさがみ夢大通り（県道504号（相模原停車場））をつなぎ国道

- 16号と接続することで、交通利便性を向上させる取組を検討する(行政・鉄道事業者)
- ・ひび割れが散見される道路の維持補修、適切な道路の維持管理を実施する(行政)

3 住環境・生活環境

現状と課題

小山地区では、ごみ出しのルールを守らない人がいることが課題となっています。

また、地区の住民以外の方がごみ集積場へごみを捨ててしまうことが問題となっています。

対応方策

- ・定期的にごみ出しのルールについて、周知を行う(市民)
- ・有料での戸別回収を検討する(行政)

4 自然・環境

現状と課題

小山地区では、区域に空き地や公園が無い自治会があり、一時避難場所が無く、自治会行事の開催に民地を借りている状況です。

また、境川については、台風等の際に水位が非常に高くなり、氾濫する恐れがあります。

対応方策

- ・空き地の無い地区に、公園やふれあい広場など公共的なオープンスペースの創出を検討する（行政）
- ・境川の改修工事を促進する（行政・関係機関）

5 産業・観光・商店街

現状と課題

小山地区では、商店が減少しており、大型店舗も撤退していることが課題です。

また、高齢者の増加に伴い、歩いて買い物に行くことが難しくなってきた市民が増えていることも課題となっています。

対応方策

- ・相模総合補給廠の一部返還地や、商店等が撤退した跡地に大型商業施設を誘致する（行政・民間事業者）
- ・高齢者の中には、ネットショッピングに馴染みが無い人もいるため、電話で注文して商品を配送してもらえるようなアナログ的なサービスを充実させる検討を行う（民間事業者）

6 安全・安心

現状と課題

小山地区では、自転車利用者のスマートフォンや傘を片手に持った運転、スピードの出し過ぎ等により、歩行者の安全性が懸念されています。なお、自転車レーンへの自動車の駐停車が自転車の通行レーンを守らないことにも繋がっていると考えられます。

また、運転に不安のある高齢者には自動車運転免許証の自主返納を進めることも必要になっていますが、進んでいないのが現状です。

防災面では、近年、想像を超える自然災害が国内で発生しており、小山地区においても災害に備えた対策が必要です。

防犯面では、地域における小学生の登下校の見守り活動において、朝の集団登校に比べて見守る人数が少なくなる下校時は安全性に懸念があります。

対応方策

- ・自転車の運転マナー（自転車通行レーンを守ること、スマートフォンを使用しながらの運転を行わないことなど）や、自動車の運転マナー（自転車通行レーンに駐車しないことなど）について、周知・徹底を行う。また、歩道内に白線で自転車通行部分を標示した歩道であっても実際には歩行者の危険が懸念されるため、安全性を向上させる対応を検討する（市民・行政・関係機関）
- ・自転車の交通ルールやマナーを身に付けるのは若いうちの方が効果的であるため、小学生、中学生等の若年層を対象とした自転車運転教室等を実施する（市民・行政・関係機関）
- ・歩行者の安全性向上のため、通学路にもなっているJR横浜線沿線の道路（市道氷川1号、小山22号）の小山踏切から小山公園までの区間について、関係機関と連携し、朝の通学時間帯を一方通行にする検討を行う（市民・行政・関係機関）
- ・高齢者が自動車を使わなくても生活できる環境の整備や生活の工夫を進めることで、高齢者の自動車運転免許証の自主返納を進める（市民・行政）
- ・自然災害に備えるために、避難場所を整備することや、自治会、市による多くの機会を通して避難経路の周知を図る（市民・行政）
- ・小学生の下校時の見守り方法について、地域全体で対策を検討する（市民）

7 健康・医療・福祉

現状と課題

小山地区では、高齢化が進み、生活そのものに不便を感じ、支援を必要としている市民も多くなっており、高齢者世帯への生活面での支援については、介護保険のみでは対応が困難になっている状況です。

また、住民同士の関係が希薄化し、近隣住民が高齢者の様子を把握していないことも多いことから、高齢者や一人暮らしの市民に対する見守り機能が低下しています。

さらに、高齢者が増加している中、健康寿命を延ばす取組が必要です。

対応方策

- ・ ボランティアによる高齢者支援に関する活動をより活発化させるとともに、既存の団体と連携して必要な支援や対応を行う。また、よりスムーズに必要な支援や対応を行うために行政からのサポートが得られる取組を検討する（市民・行政）
- ・ 老人クラブを通じた交流により必要なサポートを行うための情報を得ることができることから、老人クラブの加入を促す（市民）
- ・ 既に自治会等で行っている見守り活動について、回数や範囲を増やす等の工夫により、見守り機能の向上を図る。また、お互いに見守るという意識の向上を図る（市民）
- ・ 一人暮らし高齢者等の状況をよりきめ細かく把握するため、民生委員の増員を検討する（市民・行政）
- ・ 既に地域で行っているラジオ体操や百歳体操の参加者を増やす（市民）
- ・ 相模総合補給廠の共同使用区域内に計画されているスポーツ・レクリエーションゾーンに、鉄棒など高齢者が気軽に運動できるような器具を設置する（行政）

8 教育・子育て

現状と課題

小山地区の児童の多くは地区内にある向陽小学校に通学し、地区外の小山中学校に進学しますが、学区が選択制である相模原駅前周辺の地域では地区外の小学校に通学する児童も多く自治会内で小学校の学区が違うことから、自治会単位での子ども会の組織作りが非常に困難な状況にあることが課題となっています。なお、向陽小学校については、校舎の老朽化が進んでいることも課題となっています。

また、小中学校の土曜日、日曜日の日直代行員の制度が廃止されたことに伴い、特に中学生は部活動が多くあることから、生徒との連絡が取り難くなった状況です。

さらに、全国的に保育士の不足や待機児童が問題となっており、子育て面での支援が必要となっています。

対応方策

- ・子ども会の組織作りの困難さや、向陽小学校の校舎の老朽化の対応策として、相模総合補給廠の共同使用区域の早期返還を求め、中学校の設置を検討するとともに、学区の変更を検討する。また、向陽小学校の校舎の建て替えを検討する（行政）
- ・土曜日だけでも日直代行員の復活を検討する（行政・関係機関）
- ・安心して子育てができるように、待機児童を無くす環境づくりを検討する（行政）

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

小山地区では、地域に大きな広場が無いことや、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象とした生涯スポーツ施設が少ないという状況ですが、子育てと地域活動の活性化のために地域スポーツ活動を行う必要があります。

また、小山地区はスポーツ種目の一つであるポッチャの普及を市内でも先進していることから、他地区から問合せが多く、対応が難しくなっていることが課題です。なお、競技ルールも統一されていない状況です。

対応方策

- ・相模総合補給廠の共同使用区域内に計画されているスポーツ・レクリエーションゾーン内の多目的フィールドを、生涯スポーツの充実させる場所として活用することを検討するとともに、地域においてゲートボールやグラウンドゴルフなどの生涯スポーツの普及を行い、地域の活性化を図る取組を行う（行政・市民）
- ・ポッチャについての他地区からの問合せに対応できるよう中心となる機関を設け、普及状況を踏まえて全市的な競技ルールをまとめる（市民・関係機関）



10 地域コミュニティ

現状と課題

小山地区では、住民同士の関係の希薄化が進んでいるとともに、自治会名簿の作成・共有などについて、個人情報保護法の規定を遵守した取扱いが求められています。

また、地域活動を行っていく上で、新たな担い手が不足していることや、自治会からの脱会者の増加、子ども会への未加入の世帯が多いことが課題です。

なお、子ども会については、自治会内で小学校の学区が違ったり、子どもが少ない地域があることなどから、子ども会自体が減少していることも課題です。

さらに、地域活動を行っていく上で、地域で集まることができる場所の確保が難しく、自治会館が無い地域があることも課題となっています。

対応方策

- ・個人情報については、法律を遵守したうえで、必要な情報を地域で共有できるように取り組む（市民）
- ・地域活動の新たな担い手の育成については、自治会や地域で後押しする体制作りを行うとともに、地域のリーダーを育てるためのバックアップ体制が行政からも得られる取組を検討する（市民・行政）
- ・自治会や子ども会の未加入、脱会については、役を受けることに負担感があるといった理由が多いことから、役に対する負担を軽減するような対応策や協力体制を検討する。また、子ども会については、加入している児童と未加入の児童の交流を深める取組を行い、加入を促進する（市民）
- ・子ども会、自治会、老人クラブが合同でイベントを開催し、年齢の枠を超えた交流の活性化を図る（市民）
- ・相模総合補給廠の返還地に地域活動の拠点となるような施設の設置を検討する（行政）

会議経過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 5月22日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	21名
6月19日	第2回 ・課題と対応方策検討	23名
7月10日	第3回 ・課題と対応方策検討	20名
8月31日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	21名
9月27日	第5回 ・報告書のとりまとめ	20名

